

## まちづくりの課題

都市をとりまく社会情勢の変化や、上位・関連計画、大村市の現況および市民意向を踏まえ、今後のまちづくりにおいて大村市が解決するべき課題を以下のように整理しました。

### 課題① 海、まち、山(農地)が共生する、計画的な土地利用の推進

- (1)海、まち、山(農地)、それぞれが持つ都市空間構成の役割を踏まえ、計画的な土地利用の調整
- (2)計画的な市街地整備の誘導と、良好な自然環境を保全するなど環境に配慮したまちづくり
- (3)少子高齢化社会を見据えた、都市の利便性や活力を維持していくためのコンパクトなまちづくり
- (4)都市農地の保全と多様な機能の発揮
- (5)住宅や商業施設の開発がみられる沿岸部の工業・準工業地域における住環境・操業環境の調和

### 課題② 市民生活や地域経済を支える多様な拠点の形成

- (1)経済、交通および歴史・文化など、大村市の中心的な役割を果たしてきた中心市街地において、蓄積された都市施設の有効活用と都市機能の集積による都市活力の再生
- (2)工業団地を中心に、高速交通体系を活かした多様な産業の集積
- (3)人々の価値観の変化、情報通信基盤の進展や日常生活圏の拡大などに対し、地区の特性を活かした多様な拠点の形成と連携
- (4)空き店舗等の活用や商業等の更なる集積などによるまちの賑わい創出
- (5)子どもから高齢者、障がい者まで全ての人が健康で活動的に生活ができる環境づくり、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり
- (6)新幹線開通に合わせた新大村駅と大村車両基地駅周辺の新たな拠点づくりと交流・関係人口の拡大に向けた受入環境整備

### 課題③ 高速交通体系、情報基盤、人と人のネットワークによる交流・連携づくり

- (1)地域住民との協働によるまちづくり
- (2)県央地域としての地理的特性、長崎空港や長崎自動車道、さらには西九州新幹線などの高速交通体系を活かした地域間交流の促進及び、新幹線沿線地域との連携による広域観光周遊の促進
- (3)高速交通や、都市拠点、市街地から離れた地域や交通空白地などを含めた公共交通ネットワークを再構築し、高齢者をはじめとした交通弱者の日常生活における移動手段の確保
- (4)快適な歩行空間・交流空間の創出、まちなかの回遊性向上
- (5)自転車での移動が容易な本市の地形特性を活かしたまちづくり
- (6)市街地や大村～諫早間における交通渋滞の解消、輸送ルートの確保
- (7)Society 5.0 時代の実現に向けた、官民データの活用、IoT や AI など新技術を活用した都市の課題解決

### 課題④ 住まい環境や都市施設の計画的な整備

- (1)交通、建物、通信、行政サービスなど、都市施設の統合による、効率的なまちづくり
- (2)厳しい行財政運営の中で、最小の公共投資で、最大の成果をあげるまちづくり
- (3)県の中心的な居住の場として、多様なライフスタイルに対応した良好な都市環境及び住環境の形成・保全、移住・定住・まちなか居住等の促進
- (4)生活利便性を支える機能、良好な暮らしを支える居住機能の向上や地域のコミュニティの活性化
- (5)道路の未整備区間・未改良区間の存在や、公園の充足率の改善など、生活を支える都市施設の整備
- (6)医療・福祉・子育て機能の充実など、誰もが安心して暮らせる環境づくり

### 課題⑤ 自然環境や歴史・文化の保全・活用

- (1)森林の水源かん養の確保、生物の生息・生育空間としての自然環境の維持・保全
- (2)安定した水資源の確保、生活排水による水質汚濁の対策や、安全・安心な飲み水の確保など、良好な水環境の形成
- (3)低炭素まちづくりの推進、環境負荷の低減に配慮するなど、自然との共生に向けた取組
- (4)肥前大村藩の城下町、旧大村宿、旧松原宿に代表される賑わいや交流の場としての歴史的経緯、長崎街道の街なみなど、豊かな歴史・文化の活用
- (5)大村湾や多良山系などの豊かな自然、「桜の名所百選」に選ばれた大村公園を代表とした四季折々の花・緑などの自然資源の活用
- (6)市街地周辺部に広がる農地や里山など、田園環境を活かしたまちづくり

### 課題⑥ 自然災害に対する安全性の確保

- (1)土木関連施設の整備・保全や流域治水等による自然災害発生の抑制
- (2)災害リスクを踏まえた開発や立地の誘導など計画的土地利用による災害被害の回避・低減
- (3)避難路・避難場所や緊急輸送路等の交通ネットワークなど、災害時の迅速な救援・救助活動や復旧復興を支える基盤の強化

## まちづくりの目標

将来都市像の達成に向けたまちづくりの目標を以下のように設定します。

### 目標Ⅰ 多様な都市活動を支える持続可能でコンパクトなまちをつくります

- I-(1) 多様な都市活動や市民の暮らしを支える都市機能を都市や地域の拠点に集積し、高速交通や各拠点、市街地から離れた地域などを結ぶ公共交通と道路のネットワークを構築することで、コンパクトで機能的なまちづくりを進めます。
- I-(2) 本市の恵まれた高速交通体系を地域産業の活性化に繋げるため、産業活動を支える基盤整備や、企業誘致等による産業集積を推進します。
- I-(3) ユニバーサルデザインの理念に基づく各種整備の推進、歩行者・自転車に配慮した交通環境の整備など、人や環境にやさしいまちづくりを進めます。
- I-(4) AI や IoT など最先端技術を活用した暮らしの利便性向上や産業発展を図るなど、Society 5.0 の実現に向けたまちづくりを進めます。

### 目標Ⅱ 元気・笑顔の暮らしを支える、快適な居住環境をつくります

- II-(1) 医療、福祉、子育て、生活利便施設等の身近な生活サービスや地域コミュニティへの支援により、住み続けたい、住み続けられるまちづくりを進めます。
- II-(2) 道路や公園、上下水道などの暮らしを支える都市施設の整備や、空き家管理等を含めた防犯対策などにより、安全・安心・快適に暮らせる居住環境の形成を進めます。
- II-(3) 豊かな自然や良好な居住環境、充実した高速交通などを活かし、様々なライフスタイルを創出・提案することで、住んでみたいまちづくりを進めます。

### 目標Ⅲ 自然や歴史・文化を活かし、まちの潤いと魅力を創出します

- III-(1) 大村湾、多良山系などの豊かな自然や、市街地周辺に広がる田園空間、それらに育まれた風土や街なみなどを保全・活用し、地域を彩る自然・地形に配慮したまちづくりを進めます。
- III-(2) 公園緑地や街路樹の整備、公共施設の緑化など、都市のみどりの保全・創出を推進し、潤いのある低炭素なまちづくりを進めます。
- III-(3) 大村公園、長崎街道周辺に広がる城下町や宿場町など、個性豊かな歴史・文化を活かしたまちづくりを進めます。

### 目標Ⅳ 自然災害に強くなやかさを持った、安全・安心なまちをつくります

- IV-(1) 自然災害が頻発化・激甚化する中、災害の発生防止や被害低減に向けた、河川整備や土砂災害防止対策、流域治水を含めた総合的対策により災害に強いまちづくりを推進します。
- IV-(2) 災害ハザードエリアにおける開発抑制や災害リスクの低いエリアへの立地誘導などにより、災害被害を回避することができるまちづくりを推進します。
- IV-(3) 避難所をはじめとした防災拠点施設や緊急輸送路の整備、市内の道路ネットワークの充実、災害時の高速道路及び SA、PA、IC、スマート IC 等との連携により、災害時の避難や救援活動等を支えるまちづくりを推進します。

### 目標Ⅴ 賑わいと成長をもたらす、新たな交流・連携を展開します

- V-(1) 充実した高速交通体系を活かし多様な地域間交流を促進するとともに、豊かな自然や歴史・文化を活かした観光施策と交通施策の連携等により、新たな交流・賑わいを創出します。
- V-(2) 新幹線沿線市や大村湾流域市町など、様々な地域との連携により広域観光周遊や大村湾を活かした地域活性化を推進します。
- V-(3) 賑わいを支える人と人との交流や連携を育む市民協働によるまちづくりを推進します。